

9月18日(金) 18:30~20:30

会場：静岡県評会議室



第104回定例研究会

だれでも参加できます

「88万ウォン世代」論に見る 韓国若者世代の就労とアイデンティティ

報告者：福島 みのり 氏（常葉大学講師）

これからの企画

第105回定例研究会
「韓国経済発展論
- 高度成長の見えざる手」
朴根好（パク・クンホ）氏
（静岡大学 教授）
・日時...10月16日（金）
18:30~
・会場...静岡県評会議室

第63回理事会
・日時...11月19日（木）
・会場...静岡県評会議室

新しい若者たちの生き方・働き方

韓国の「88万ウォン世代」とは、20代の非正規職の手取りが月平均88万ウォン（2009年換算で約6万円）であり、20代の失業者と非正規雇用増大の深刻さを表した言葉として急速に社会全体に広まった。このような状況の中で、今を生きる20代はどのような働き方、生き方を望んでいるのであろうか？

既存の生き方から抜け出し、「社会を変える」「生き方を変える」ことを積極的に実践している若者、すなわち韓国の社会的企業、ソーシャルベンチャーで働く若者への調査から、彼らの求める働き方、生き方には以下のような点が見られた。

第一に、「やりたいこと」を仕事にする自律的労働への欲求である。第二に、「文化（アート・デザイン）」への欲求である。第三に、ライフスタイルにおける「自立」から「自律」への移行である。社会的企業で働く20代にとって、経済力を身につけた「自立した人生」よりも、自分の「やりたいこと」を忠実に実行して生きていく「自律した人生」が優先視されている。